

武蔵野市 公共施設のあり方 ワークショップ かわらばん 創刊号

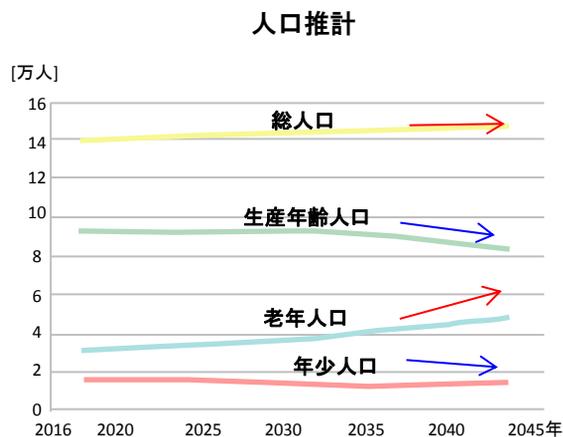
平成30年10月16日発行
武蔵野市 総合政策部 資産活用課
☎ 0422-60-1973

公共施設の老朽化が進み、建替えには多額の費用が必要になってきます。少子高齢化が進む中、地域の課題やその解決方法について、市民の皆様からアイデアをご提案いただく「公共施設のあり方ワークショップ(全4回)」を開催しています。このワークショップの内容や雰囲気に参加者のみならず、市民の皆様が発信していくため、かわらばんを創刊しました。

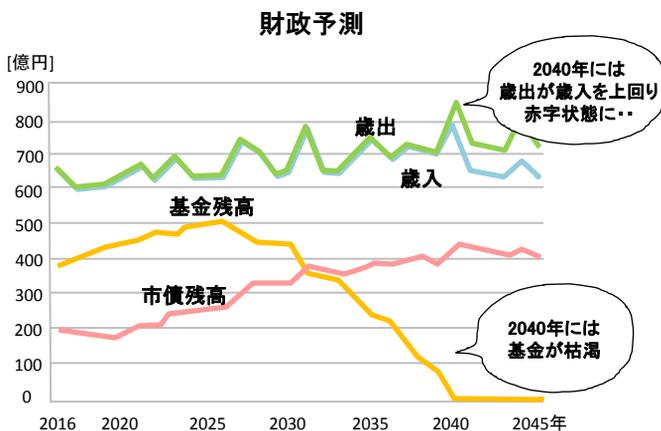
公共施設の現状と課題

武蔵野市は1957(昭和32)年に人口が10万人を突破、その後も人口は増え、1977(昭和52)年には13万5千人に達し、人口増加に対応するため、1965～1984年(昭和40～50年代)に公共施設を整備してきました。これらの施設は2027年頃から一斉に建替の時期を迎えます。

武蔵野市の人口推計と財政予測



2014年に行った人口推計では、今後30年で人口は微増、少子高齢化が進む予測となっています。



武蔵野市の財政状況は、現在は安定していますが、2040年以降厳しい状況が予測されます。

※2018年に人口推計を行ったことに伴い、今後新たに財政予測を作成します。

9月22日 第1回(全体会)ワークショップを開催!



無作為抽出と公募で募集いただいた87名の市民の皆様により、公共施設のあり方を考える全4回のワークショップをスタートしました。

第1回は、全体会として、全員にお集まりいただき、「**みんなが利用しているサービスを探ろう**」をテーマに、吉祥寺地区、中央地区、武蔵境地区に分かれて、ワークを行いました。第2～3回は、各地区ごとにワークショップを行う予定です。ワークの結果は次のページをご覧ください。

公共施設に行ってみよう! ワークショップ運営スタッフがおすすめる武蔵野市ならではの公共施設をご紹介します!

施設名称 **松露庵** しょうろあん



松露[※]庵は、市立古瀬公園内の一角を占める旧古瀬邸を改修し、2002年に本格的な茶室として生まれ変わりました。

にじり口を持つ三畳台目の小間のほか、水屋を兼ねた六畳間及び八畳間からなる和室で構成されており、庭は待合を配した日本庭園です。茶道のほか句会、川柳、短歌、華道など、日本の伝統文化の様々な活動の場としてもご利用できます。

※「松露」とは、「松の葉におく露」の意。松葉のような細い葉でも命が宿って露が生じ、その露はうたかたに消えてしまう。これは茶の道の「一期一会」にも通じます。

所在/桜堤1-4-22 開館時間/午前9時～午後5時 休館日/水曜日 問合せ/☎36-8350

今回のワーク

日常生活の中で、
どんな施設を、
どんな目的で、
どれくらいの頻度で
利用していますか？



日常の行動を
ふせんに書き出し、
地図に貼り出して、
情報共有しました。

3 地区それぞれの特徴

武蔵境地区



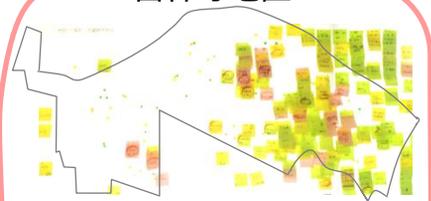
公共施設では武蔵野プレイス、民間施設ではイトーヨーカドーの利用が多い結果となりました。他の地区を含めても、公共施設の中では、武蔵野プレイスが最も利用頻度が高かったです。利用目的も読書や食事、習い事など多岐に渡っており、様々な層に利用されていることが分かりました。

中央地区



中央地域の方の活動範囲は、中央地域だけでなく市内全域に広がっていました。公共施設に関しては、中央図書館や市役所など中央地域にある施設の利用が多かったのですが、武蔵境地区にある武蔵野プレイスの利用者数も多かったです。買い物や食事などは、自宅付近の中央地域と吉祥寺駅周辺で多く行われていました。

吉祥寺地区



駅周辺の民間施設(アトレ、キラリナ、東急百貨店、ヨドバシカメラなど)での買い物や食事などの利用が非常に多い結果となりました。また、病院や診療所に定期的に通っているかたも多かったです。公共施設では、料理教室やボランティアなど多岐にわたる目的で、地域のコミセンの利用が多かったです。他地区で利用が多かったプレイスの利用は比較的少なめでした。

！ 讃岐先生解説



首都大学東京 都市環境学部 助教
専門は都市計画学。
これまで多数の自治体において、
公共施設の再編に関する計画づくりや
ワークショップなどを支援。

今回のワークショップは、首都大学東京の讃岐先生とその学生さんにもお手伝いいただいています！

讃岐先生コメント

色々な使われ方をされていたり、少し離れたエリアの市民の利用も多い武蔵野プレイスは、これからの公共施設のあり方を考えるヒントになるのでは、と思いました。
「公共施設をもっと賢く使う」、「市民の満足度が上がるようなサービスを」と考えた時に、既存概念でつくられた公共施設だけでなく、新しい発想を取り入れてこれからの公共サービスを考えることが必要と考えます。どんなアイデアが生まれるか、これからのワークが楽しみです！

参加者からの声

自分が住んでいる町が好きなので、いろいろと知れてよかった。もっと知識を深めたい。

一つの施設を様々な用途で使用できるとファミリーのようないろいろな世代と一緒に楽しむことができるし、いいなと思いました。

みなさんがどんな施設を日々利用されているのか、ワークショップを通じて会話も増えて楽しかった。

将来変化していく財政状況、年齢構成など常に先を見据えていかねばならない。

かわら板 (市ホムページ)



次回11月下旬に発行予定